

都立広尾

(とりつひろお 東東京)

特徴は固い守りと逆方向への打撃！
自分達で考え、集中しながら行う
“楽しい”練習の成果をこの夏
すべて発揮する



校舎をバックに
氣勢を上げる選手達。

「オーイ!!! 捕れよ!!!」
ノックを打つ監督がやや甲
高い声で叫ぶ。
「オーイ!!! もっと気合
い入れる!!!」

他の選手達からも野次が
飛ぶ。

しかし、表情はみんな明
るい。

都立広尾高校の野球部は
監督を含め選手みんなが
「野球が好きでたまらない!」
といった顔をしている。

事実「みんな明るくて、
常に考えながら、集中して
やっている。だから練習が
楽しい」と選手たちは言う。

**課題を自分たちで理
解し、考えて行う練習**

山手線の恵比寿駅を降り
て、駒沢通りの坂道を歩
くと見えてくる閑静な住宅街。
その中に都立広尾高校があ
る。東京都渋谷区の住宅街。
都内の高校特有の悩みを抱
えている。



右上 / 広尾高校のグラウンド。内野の後ろに校舎がある。打撃練習ではネットに当たることもしばしば。
 左上 / 学校周辺の風景。閑静な住宅街、マンションなどが立ち並ぶ中に広尾高校がある。
 左中 / 外野ノックを受ける選手達。一ヶ所で集中して行うことが多い。
 左下 / 打撃マシンを使用しての打撃練習、ティーバッティングを行う選手達。場所をやりくりしながら練習している。

「ここで出来ることをしっかりとやって、それ以外のことは外のグラウンドを借りて補っている。そして練習メニューには選手達自身考えて行くものもある。」
 「自分にとって、チームにとって何が必要なのか？課題を自分達で理解し、それを克服するために考え、動けないとダメ」そう語るのは、2001年に都立城東高校を甲子園出場に導いた梨本監督。
 必要最低限の規律は守りながらも、できる限り自分達で考えさせて、気付いたことを後で言っ。

「グラウンドが狭い」「ここで試合ができない」「そんな声が聞こえてくる。部員はマネージャーを含めて78人と多いので、なおさらだろう。」
 しかし、何も対策をしなかった訳ではない。
 キャッチボールはグラウンド全体を使って行い、外野手は一ヶ所にまとまってアメリカンノックをする。部室前のスペースでティーバッティング、廊下でバトミントンの羽根を打ち返す練習。これらは限られた空間を活用した練習だと言える。実践練習では自分たちで場面を設定して行っている。

練習中にジャージを着て練習の手伝いをしている部員達がいる。夏の大会でベンチ入りを逃した3年生部員だといふ。彼らはユニホームを着た部員と同じかそれ以上に声を出し練習を盛り上げる。ノックの手伝い、ボール拾いなど裏方の仕事も嫌な顔ひとつせず笑顔で行っていた。
 「うちは部員が多いが、技術の差によって練習メニューが変わることはなかった。」

「グラウンドに入ると選手たちでやらないといけない。監督が打席に入るわけではない。だから、監督に頼るのではなく、選手一人ひとりが今自分がすべきことを考え実践できなければいけない」(梨本監督)
 「練習試合をする(相手)がみんな知っている。それに良いことは良い、悪いことは悪いとしっかり注意しそれが得ている。だから監督のいうことは信用できる」と選手たちは言っ。
 自分たちの監督を心から信頼して日々の練習を行える。それが広尾高校の強みだと言える。

いつまでも野球を好きでいて欲しい



右 / 指揮を執る梨本監督。
都立城東高校を甲子園に導いた
こともある。
左 / 控えの3年生部員達。声を出したり裏方作業に徹するなど、
最後までチームに貢献する。



上 / きっちり並べられたヘルメットとバット。
野球が大好きだからこそ、道具も大切にしている。

ケガでプレーができなくてもベイスコアをやるなど、(練習)試合にも多く出してもらえた」
高校最後の大会で(試合では)自分に出番がないと分かったとき、気持ちを切り替えるのは容易ではない。それでも彼らがやるべきことに全力を注いでいるのは、普段から全員が対等の関係で野球に取り組んでいたことが大きいだろう。

「野球で学べることは技術だけではない。礼儀、我慢、気遣いなど人間的な部分で成長して欲しい。それに今十代の彼らが二十代、三十代になって結婚してもまだ野球を好きでいてくれたら嬉しい」と話す梨本監督。
だからこそ、いくら部員が多くても、みんなが野球の楽しさを味わえるように心がけている。

昨年の秋はプロック予選を突破したが、続く東京都大会では初戦・八王子に1-2で敗れた。今年に入って春季東京都大会では、初戦で同大会で準優勝の修徳相手に敗れるも延長13回まで戦い5-6の接戦を演じた。

守りに自信があり、少ないチャンスをものにしてそれを守るといのがチームの勝ちパターン。しかし秋は1得点で敗れ「自分達は打てない」という弱点を自覚することができて、冬場は打撃力を強化。反対方向に強い打球を打つことを心がけ、成果が出たのが春の修徳戦。序盤3イニングで5点を奪って見せた。勝負所でいかに点が取れるか?それが今夏の広尾高校躍進の力ぎを握る。

同校は「個性を伸ばす」という校風もあって、明るい生徒が多いという。
「家から学校まで遠く、入学当初は知り合いもいないので不安だったが、明るくてよくしゃべる生徒が多くすぐ友人ができた」という環境。

それが野球部に集まる生徒達の性格や、練習にも反映されているように思える。
そんな広尾高校の夏の大会初戦は、駒大との対戦。神宮球場で、7月12日の11時30分から開始予定となっている。